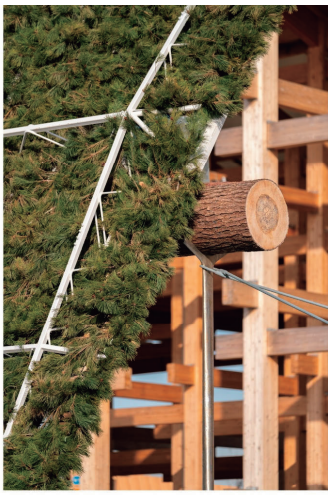
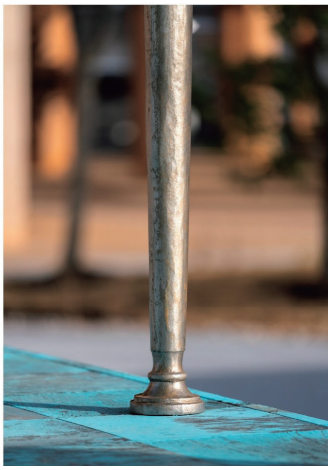
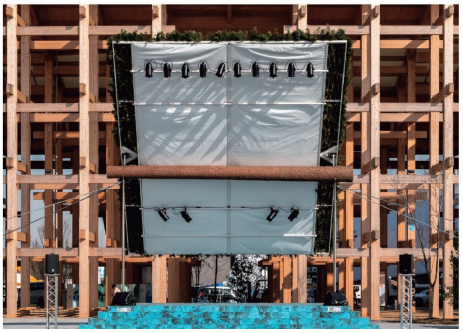
2025年日本国際博覧会　パビリオン・施設の紹介（No.25）

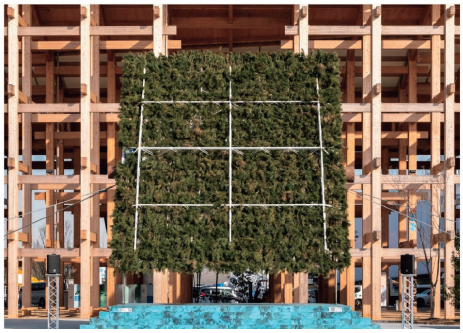
ポップアップステージ西

【設計】株式会社三井嶺建築設計事務所









【パビリオンの概要】

連日、多国籍かつ多種多様なイベントが行われている屋外ステージ。大屋根リングの西側、西ゲート付近にある。

ステージの広さは7.2m四方。両脇にすこし距離を置いて、楽屋・倉庫棟を有する。楽屋・倉庫棟はステージを構成する丸太とパーゴラ状の屋根の水平力を負担するための、構造上重要な役割を果たしている。丸太を支える柱はピン柱で、極細のステンレス鋳鋼製。

立地を考慮し、背面壁や袖壁を設けず、360度どこからでも観覧可能な開放型のステージ形式としている。

構造設計：ARUP
設備設計：CHCシステム株式会社
施工者：株式会社安井杢工務店

【設計概要】

万博、祝祭の場には、人が集まる目印となる最小限の「しるし」のようなものがあれば十分ではないか。門型は、人間がつくる場の原初的な単位である。さらに根源を探り、柱に素朴な装飾を施し「極細のエンタシス」とした。柱は自然物のように感じられ、見る人に負担のない存在となる。そこに梁を載せると、まるで梁だけが浮いているように見える。木を伐り、伏せ、高く掲げる――人にしかできない単純な構成で、1本の松丸太が強い「場」をつくる。丸太の上に松葉葺きの屋根を掛ければ、それだけで舞台は成立する。屋根はシーソーのように動き、緞帳のような役割も果たす。松丸太の建て起こしや松葉葺きは、祇園祭の山鉾や春日大社おん祭仮御殿を参照。祝祭の場にふさわしい新たな原初性を形にした。

写真協力：2025年日本国際博覧会協会（写真撮影：鈴木淳平）

当施設の確認検査は、（一財）日本建築総合試験所が実施しました。